

# 庄原市行政評価シート

令和2年度評価

事務事業名	ひろしまの森づくり事業
-------	-------------

所管	企画振興	部	林業振興	課	
実施期間	平成 19	年度～	令和 3	年度（終期設定が無い場合は終期を空白）	
予算科目	会計	款	項	目	事業
	01	06	03	02	3808
	一般会計	農林水産業費	林業費	林業振興費	ひろしまの森づくり事業
対象者	森林所有者、市民団体			対象者数など	不特定
根拠法令等	ひろしまの森づくり事業補助金交付要綱				
HPアドレス	-				
実施目的	県土の保全や水源涵養などの森林の有する公益的機能を持続的に発揮させるため、「ひろしまの森づくり県民税」を財源に、県民共有の財産である森林を県民全体で守り育てる事業を推進する。				
事務事業の概要	<p>(1) 手入れされずに放置され、荒廃が進んでいる人工林について、間伐や混交林への誘導による放置林の健全化や風雪による被害を受けた人工林の処理を行う。</p> <p>(2) 景観の悪化や防災対策、鳥獣被害対策など地域により様々な課題を抱える里山林について、除間伐・下刈りや危険木伐採、繁茂した竹林の伐採などにより、課題解決に向けた森林整備を進める。</p> <p>(3) 住民団体や森林ボランティア団体などが自主的に行っている森づくり活動について支援をする。</p>				
年度別実績概要	平成29年度	環境貢献林事業(人工林の整備:245.45ha、被害木の整理:3.83ha、森林作業道の補修:1,741m) 里山林整備事業(放置林整備:10.55ha、竹林繁茂防止:11.97ha、鳥獣被害防止:7.04ha)			
	平成30年度	環境貢献林事業(人工林の整備:212.49ha、被害木の整理:2.27ha、森林作業道の補修:4,261m) 里山林整備事業(放置林整備:10.36ha、竹林繁茂防止:8.19ha、鳥獣被害防止:9.76ha)			
	令和元年度	環境貢献林事業(人工林の整備:213.23ha、被害木の整理:1.02ha、森林作業道の補修:2,715m) 里山林整備事業(放置林整備:11.11ha、竹林繁茂防止:10.6ha、鳥獣被害防止:10.44ha)			

## 実績指標

(単位:千円)

事業費	項目	内容	H29	H30	R1	計
	(インプット)	事業費	森林整備事業(工事費)	134,505	136,390	143,543
事務費		事務費	1,487	1,687	2,992	6,166
						0
		計	135,992	138,077	146,535	420,604
財源	国県支出金	ひろしまの森づくり事業補助金	135,980	138,055	146,525	420,560
	地方債					0
	その他					0
	一般財源		12	22	10	44

実績	指標名称	単位	基準値	H29	H30	R1	計
	(アウトプット)	1 人工林の整備	ha		245	212	213
2 里山林の整備		ha		30	28	32	90
3							0
成果	1 森林の公益的機能回復、災害防止、所有森林の境界明確化等						
	2 景観保全、災害防止、鳥獣被害対策等						
	3						
備考	成果について、数値的に示すことは難しいが、指標名称欄に記載した効果が得られた。						

# 庄原市行政評価シート

令和2年度評価

事務事業名	ひろしまの森づくり事業
-------	-------------

評価項目	所管課	市民意見	評価委員会	評価平均(上段)・分布(下3段)	
(評価は、A=1,B=0,C=△1とした平均値で、A,B+,B-,Cの5段階判定)				市民意見	評価委員会
<b>優先度</b>	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>B+</b>	0.0	0.4
A 同じ分野の他の事業と比較し、優先度が高い事業である。				0	3
B 同じ分野の他の事業と比較し、優先度は中くらいの事業である。				1	4
C 同じ分野の他の事業と比較し、優先度が低い事業である。				0	0
<b>認知度</b>	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>B</b>	0.0	0.0
A 対象者以外にも、おおむねの内容は知られている事業である。				0	0
B 対象者には、おおむねの内容は知られている事業である。				1	7
C 一部の者を除き、事業があることすら知られていない。				0	0
<b>有効性</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>B+</b>	0.0	0.3
A 費用に対して、効果・成果が高い事業である。				0	2
B 費用に対して、効果・成果が中くらいの事業である。				1	5
C 費用に対して、効果・成果が低い事業である。				0	0
<b>受益者満足度</b>	<b>A</b>	<b>B</b>	<b>A</b>	0.0	0.6
※受益者: 森林所有者、市民団体					
A 受益者(対象者)は、満足している事業内容である。				0	4
B どちらともいえない。				1	3
C 受益者(対象者)が、満足できない事業内容である。(改善要望がある ほか)				0	0
<b>市民(納税者)納得度</b>	<b>B</b>	<b>-</b>	<b>B+</b>	-	0.4
A 目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外も納得できる事業である。				0	3
B どちらともいえない。				0	4
C 目的・費用・自己負担・内容等から、対象者以外は納得できない事業である。				0	0
<b>代替性</b>	<b>A</b>	<b>A</b>	<b>A</b>	1.0	0.9
A 収益性や技術面から民間での実施が難しく、市が実施すべき事業である。				1	6
B 民間での実施も可能であるが、公共性・公平性などから市が関与すべき事業である。				0	1
C 市の関与は委託や助成とし、民間等での実施を検討すべき又は市が関与する必要はない事業である。				0	0
<b>まちづくり基本条例適合性</b>	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>B</b>	0.0	0.0
A 市民(団体等を含む。)の自立を促進する事業である。				0	1
B 市民の自立促進までは期待できないが、条例の趣旨(市民が主役のまちづくり)に沿った事業である。				1	5
C 条例の趣旨に沿った実施形態となるよう、手法・内容を見直すべき(終了を含む。)事業である。				0	1

所管課評価	<b>拡充</b>
-------	-----------

視点	ひろしまの森づくり事業は広島県の森づくり県民税を財源に5年を1期として行われており、令和2年度は3期目の4年目となる。毎年庄原市では、県からの多額の交付金を基に庄原市の森林整備を進めており、施業を実施した森林所有者からの好評の声を多数頂いている。令和4年度以降の事業継続については不透明であるが、県内有数の森林面積を有する当市にとって本事業は非常に有効であるため、広島県に対し、事業継続を要望し、これまで以上に効果的なPR活動に努め、効率的な森林整備に努めたいと考えていることに対し、意見を伺いたい。
課題	ひろしまの森づくり事業を実施した森林について、森林所有者が施業後20年間は適切な森林管理をしなければならないことになっている。森林所有者が高齢者の場合(後継者も遠方に在住)、20年間管理及び整備を継続して行うことが困難な事例がある。また、本事業を認知していない森林所有者も多数いるため、PRの方法を改善していく必要がある。

事務事業名 ひろしまの森づくり事業

**市民意見  
(プラモニ)**

※市民意見は、意見数集計のみを評価とします。(プラモニとしての総括評価はありません。)

※全意見は、ホームページに掲載しています。

分布	現行どおり	拡充	縮小	終了	その他の見直し	総回答数
	1	0	0	0	0	1
主な意見	<p>【現行どおり】 庄原市域の森林をどのようにして活用しようとしているのか、もう少し市民に解りやすくPRしていく必要があると思います。</p>					

事務事業名 ひろしまの森づくり事業

行政評価  
委員会評価

拡充

※行政評価委員会の摘録(会議内容)はホームページに掲載しています。

総括  
意見

環境保全や水源涵養機能等、森林の有する公益的機能を将来に渡って維持するためには、森林の適切な管理が必要である。  
しかしながら、森林所有者の高齢化や境界不明確、木材価格の低迷などにより、森林に対する関心が低くなり、手入れが行き届かない森林が多く存在している。  
所管課検討のPR活動について、本事業の認知を図るのみならず、森林・林業に対する理解・関心の醸成のため、積極的な普及啓発活動を実施されたい。

※委員会における最終的な評価として総括したもので、分布の多い評価を優先するものではありません。



分布	現行どおり	拡充	縮小	終了	その他の見直し
	1	4			2

【現行どおり】

③森林の地主境界を明確化する事と自主的な森林管理意識の醸成を図ることにより山林の価値を高める狙いがあると思われる。  
現行どおりの事業継続を要望する。

【拡充】

①森林は水源涵養や環境保全に重要な役割を果たしています。しかし、所有者の高齢化や、立木の価格が低迷していることから手入れがされていない森林が多くなっている中で、森づくり事業は有効な事業であると思います。今後有効的で効率的な森林整備事業を進めてほしい。

④庄原市は広大な森林面積を持ち、森林整備は必要な事業である。森林の活用も検討いただきながら、広島県に対して事業継続を積極的に要望していただきたい。

⑤県内有数の森林面積を有する庄原市にとって本事業は有効なものと考えます。その上で、小規模な森林所有者にとっては、そのメリット、その仕組み、そして、この制度を利用するための手続き等、ほとんど知られていないのが現状ではないでしょうか。

庄原市の林業振興係の方が地域に出向いて頂き、説明会等を開催していただければ、より理解が深まるのではないのでしょうか。もちろん「出前トーク」という制度(申請が必要)もありますが、振興係の方から出てきていただければ、「是非、この制度を知って欲しい」という熱意が伝わるのではないのでしょうか。

⑦山の管理は大切と考える。昔は地域ぐるみで薪などを得るために近くの山の手入れを行ってきたが、現在はそういうこともなく、荒れていく一方である。また、山に関しての知識も乏しくなっており、専門業者に任せるしかない。施業後の森林管理も所有者から委託してもらおうなど工夫が必要と思われる。PRの方法も見直し、広く知ってもらおうことを望む。

【その他の見直し】

②近年、木材価格の低迷などで森林に対する山主の関心は低く、森林所有者の高齢化、不在地主の増加や森林の境界不明など山林への課題は多い。また、広範囲な森林の皆伐による災害の誘発など課題が山積している。そうした中で、本事業は平成19年度より実施されており、近年は多額(1億円余)の事業費を充てて実施している。その内容は人工林対策と里山林対策に大別されるが、里山林においては、整備の施業後数年で元の山林に戻るなど、管理等に課題があるように思える。また、令和元年度から始まった森林環境譲与税との兼ね合いなど納税者にしっかりとした説明が必要に思える。

⑥当事業は、全額が県の事業であり、事業者(森林組合等)が実施しよう(できる)と考える内容について申請を行い、それが年度ごとに実施されているということなのですが、1億4千万円もの大きな事業費がある中で、それが本当に「庄原市の森林のため」に生かされていると言えるのかどうか、今回の評価期間では確信が持てませんでした。市の面積の半分近くを占める森林を、いかに生かすか・荒らさないかは、庄原市にとって人口減少問題と同じくらいの、喫緊の課題ではないかと考えます。しかし、国産材の価格が低迷し、「山が金を生まない」現状のなか、1億4千万円のお金が「庄原の森林を守るために」毎年助成されているのだとすれば、それは願ってもない大チャンスなのではないのでしょうか。その金額を、「しなければならない事業」のみを対象にして淡々と消化していくのではなく、その一部でも、100年後の庄原を見据えた将来への投資として、事業を起こすとか新たな試みは行えないのでしょうか。…と言いますか、行ってほしいです。

各委員  
の意見

今後の事業  
実施の方向性

拡充

広島県の実施基準に基づき、引き続き、森林組合を中心とした市内における県の認定事業主と連携を密にし、施業可能量を捕捉する中で、計画的な事業実施に努める。また、広報誌等を通じて、市民の皆さまに対し、本事業のPRを実施するとともに、令和4年度以降も本事業が継続されるよう、広島県に対し要望活動を行う。

備考 予算額 令和3年度:148,357千円  
令和2年度:149,272千円